

全 学 科 共 通

2・3・4年次科目

【自由科目】※卒業単位には含まれない

IPE 海外短期研修 …………… 169

多職種連携学習 …………… 169

科目名	科目種別	※1		単位数
担当教員	(期)※2	(曜日)	(時限)※3	
①授業方針・テーマ				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標				
③授業計画・内容				
④テキスト・参考書				
⑤成績評価方法				
⑥特記事項				

※1 対象学科、学年、必修、選択別はこの欄に表示されています。

「看護」は看護学科、「理学」は理学療法学科、「作業」は作業療法学科、「放射」は放射線学科の略です。

「クラス指定」と記載のあるものは、対象学科以外の学科は履修できません。

※2 開講期はこの欄に表示されています。

※3 開講時限はこの欄に表示されています。

各時限の時間は以下のとおりです。

1 時限:8:50～10:20

2 時限:10:30～12:00

3 時限:13:00～14:30

4 時限:14:40～16:10

5 時限:16:20～17:50

6 時限:18:00～19:30

各学科の開講曜日時限、授業概要等は変更になることがありますので、掲示に注意してください。

科目名	M206 解剖学 I	科目種別	理学・作業 1年・必修	単位数	2
担当教員	易 勤	前期	月曜日		1 時限
①授業方針・テーマ	①靭帯学を含めた骨格系と筋系について基礎的知識を講述する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②理学・作業療法学科にとって特に重要とされる全身の骨格、骨連結(関節・靭帯)、筋について習得することを目的とする。				
③授業計画・内容	③以下の項目を15回の講義で行う 1. 人体構造の概要:解剖学用語・細胞, 組織, 器官, 器官系 2. 骨格系総論:基本構造・骨形成と成長・骨連結・関節の構造 3. 骨格系各論Ⅰ:脊柱・胸郭 4. 骨格系各論Ⅱ:上肢帯と自由上肢骨 5. 骨格系各論Ⅲ:下肢帯と自由下肢骨 6. 骨格系各論Ⅳ:頭蓋骨 7. 骨連結総論 8. 骨連結各論Ⅰ:体幹の連結 9. 骨連結各論Ⅱ:上肢の連結 10. 骨連結各論Ⅲ:下肢の連結 11. 筋系総論:筋の種類, 形態, 運動の用語, 筋の補助装置 12. 筋系各論Ⅰ:体幹の筋 13. 筋系各論Ⅱ:上肢の筋 14. 筋系各論Ⅲ:下肢の筋 15. 人体解剖学見学実習(土曜日)				
④テキスト・参考書	④テキスト:野村嶺 編集「標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 解剖学」(医学書院)第3版 2010年03月発行 参考書:中野隆 監訳「Essential 解剖学 テキスト&アトラス」(南江堂)2015年4月発行				
⑤成績評価方法	⑤受講態度(10%)および筆記試験(90%)によって評価する。				
⑥特記事項	⑥国家試験科目であり必修である。				

科目名	M226 解剖学演習	科目種別	理学・作業 1年・必修	単位数	1
担当教員	易 勤	後期	月曜日		4 時限
①授業方針・テーマ	①系統解剖学のうち中枢神経系を中心に講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②理学・作業療法学科の対象となる患者には中枢神経疾患も多く、その基礎的知識を習得する。発生的理解と脳、脊髄の構造と機能的理解を目的とする。				
③授業計画・内容	③以下の項目を講義で行う 1. 神経系の概要 2. 脳室系・脳脊髄液 3. 脊髄:頸髄・胸髄・腰髄・仙髄・終系・馬尾 4. 脳幹:中脳・橋・延髄 5. 小脳 6. 間脳:視床脳・視床下部 7. 大脳:大脳皮質・大脳髄質・大脳基底核 8. 中間試験 9. 神経伝導路:上行伝導路・下行伝導路(錐体系・錐体外系) 10. 脳神経:嗅神経・視神経・動眼神経・滑車神経・三叉神経・外転神経・顔面神経・内耳神経・舌咽神経・迷走神経・副神経・舌下神経 11. 脊髄神経:頭頸部の神経・胸神経・腕神経叢 12. 脊髄神経:腰神経・腰仙骨神経叢 13. 自律神経:交感神経・副交感神経 14. 感覚器系:皮膚・視覚系・聴覚系・平衡感覚系・嗅覚系・味覚系 15. まとめ・定期試験				
④テキスト・参考書	④テキスト:野村嶺 編集「標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 解剖学」(医学書院)第3版 2010年03月発行 参考書:中野隆 監訳「Essential 解剖学 テキスト&アトラス」(南江堂)2015年5月発行				
⑤成績評価方法	⑤受講態度(10%)および筆記試験(90%)によって評価する。				
⑥特記事項	⑥国家試験科目であり必修である。				

科目名	M202 生理学 I	科目種別	理学・作業 1年・必修	単位数	2
担当教員	渡辺 賢		前期		火曜日
①授業方針・テーマ	①生理学 I・生理学演習では、人の体の「しくみ」を考えます。人間は個体として生きていることはもちろんですが、器官、組織、そして細胞に至るまで、それぞれに生命の「しくみ」を持っています。どのレベルにおいても、生きるためには、複雑に組み合わさった非常に多くの部品（例えば個々の遺伝子や分子）が正しく制御されなければなりません。その部品を統合し制御する「しくみ」を自然科学（生理学）の立場から追求します。前期の「生理学 I」では、総論といわゆる動物性（神経筋・感覚）機能を、後期の「生理学演習」ではいわゆる植物性（自律）				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②人体を構成している諸器官・臓器の正常な機能とそれらの調節・制御機構を理解します。最終的には自然科学の目から統合的に人体を把握できることが目標です。				
③授業計画・内容	③項目1(第1回):恒常性の維持(イントロダクション) 項目2(第2,3回):細胞の理解(細胞生理) 項目3(第4,5回):興奮性細胞の一般的性質 項目4(第6,7回):末梢神経機能 項目5(第8,9回):運動機能と筋肉 項目6(第10,11回):中枢神経機能 項目7(第12,13,14回):感覚機能と恒常性維持の関係 項目8(第15回):総論および動物性機能のまとめ (以下、後期開講の生理学演習に続く) できるだけ講義中に簡単なクイズを行います。又、課題を解き、纏めて表す力を涵養するため、定期的に文章題を提示いたします。				
④テキスト・参考書	④生命についての知識を持っている人は、生理学テキスト(第6版)大地陸男著 文光堂刊を、生命科学に自信がない人は《系統看護学講座 専門基礎分野》人体の構造と機能[1] 解剖生理学(第8版)坂井建雄/岡田隆夫著 医学書院刊、又は、標準理学療法学・作業療法学・専門基礎分野・生理学(第3版)石澤光郎、富永淳著 医学書院刊のいずれかを、通読することを奨めます。また、講義資料を毎回配布致します。				
⑤成績評価方法	⑤出席態度(約10%)、筆記試験(約90%)などを総合し評価します。				
⑥特記事項	⑥祝日や教員出張等により講義日を変更することがあるので注意してください。 ⑦質問等は渡辺 賢 masaru@tmu.ac.jp まで願います (@は半角に変えてください)。				

科目名	M229 生理学演習	科目種別	理学・作業 1年・必修	単位数	1
担当教員	渡辺 賢		後期		月曜日
①授業方針・テーマ	①生理学 I・生理学演習では、人の体の「しくみ」を考えます。人間は個体として生きていることはもちろんですが、器官、組織、そして細胞に至るまで、それぞれに生命の「しくみ」を持っています。どのレベルにおいても、生きるためには、複雑に組み合わさった非常に多くの部品（例えば個々の遺伝子や分子）が正しく制御されなければなりません。その部品を統合し制御する「しくみ」を自然科学（生理学）の立場から追求します。前期の「生理学 I」では、総論といわゆる動物性機能を、後期の「生理学演習」ではいわゆる植物性機能について学ぶ予定です				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②人体を構成している諸器官・臓器の正常な機能とそれらの調節・制御機構を理解します。最終的には自然科学の目から統合的に人体を把握できることが目標です。				
③授業計画・内容	③(項目番号は前期開講の生理学 Iから続いています) 項目9(第1,2回):血液(体液組成、赤血球・白血球・血漿の機能 止血機構、生体防御) 項目10(第3,4回):呼吸(呼吸運動 ガス運搬機構、呼吸調節) 項目11(第5,6回):循環(心筋の性質 心臓の興奮・収縮・弛緩、動脈・静脈・毛細血管の機能) 項目12(第7,8回):排泄(腎臓機能)(尿生成 腎糸球体機能、排尿、体液 pH 調節機構) 項目13(第9,10回):消化・吸収(消化と消化液 吸収の機構、消化管運動、消化管免疫、排便) 項目14(第11回):代謝・体温調節(代謝の概要、体温調節機構と代謝) 項目15(第12,13回):内分泌(ホルモンとその作用、分泌調節) 項目16(第14回):生殖(生殖器とその機能) 項目17(第15回):植物性機能のまとめ できるだけ講義中に簡単なクイズを行います。又、課題を解き、纏めて表す力を涵養するため、定期的に文章題を提示いたします。				
④テキスト・参考書	④生命についての基本的知識を持っている人は、生理学テキスト(第6版)大地陸男著 文光堂刊を、生命科学に自信がない人は《系統看護学講座 専門基礎分野》人体の構造と機能[1]解剖生理学(第8版)坂井建雄/岡田隆夫著 医学書院刊、又は、標準理学療法学・作業療法学・専門基礎分野・生理学(第3版)石澤光郎、富永淳著 医学書院刊のいずれかを、通読することを奨めます。また、講義資料を毎回配布致します。				
⑤成績評価方法	⑤出席態度(約10%)、筆記試験(約90%)などを総合し評価します。				
⑥特記事項	⑥祝日や教員出張等により講義日を変更することがあるので注意してください。原則として、本講義の履修には、生理学 Iの単位を修得済みであることが必要です。 ⑦質問等は渡辺 賢 masaru@tmu.ac.jp まで願います (@は半角に変えてください)。				

科目名	M201 精神医学 I	科目種別	理学・作業 1年・必修	単位数	2
担当教員	繁田 雅弘	後期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	①各種精神障害の特徴を理解する。それぞれの障害の症候を憶えるだけでなく、それぞれの精神障害が他の精神障害と異なるところを理解する。各疾患の本質的特徴をとらえることを目指す。個々の症状を切り離して考えるのではなく、全体的、総合的に把握することを目指してほしい。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②各種の精神障害において、どのような精神症状が出現するのか、どのような経過をたどるのか、またどのような原因が関係するとかんがえられているのか、について理解することができる。各種精神疾患の病態の違いや、特徴をとらえることを授業目標とする。				
③授業計画・内容	③1. 精神障害の分類と特徴 2. 精神障害を理解するための予備知識と精神医学のとらえ方 3. 神経症性障害の分類と特徴 4. ストレス関連障害と身体表現性障害の分類と特徴 5. 気分障害(躁病・うつ病・躁うつ病)の症状と特徴(1) 6. 気分障害(躁病・うつ病・躁うつ病)の症状と特徴(2) 7. 総合失調症とその関連疾患の症状と特徴(1) 8. 総合失調症とその関連疾患の症状と特徴(2) 9. 精神作用物質による障害の症状と特徴 10. 精神遅滞と広汎性発達障害・特異的発達障害 11. てんかんの発作型分類と特徴 12. 脳器質性精神障害(4大認知症の特徴と症状を中心に) 13. パーソナリティ障害の分類と特徴 14. 摂食障害・睡眠障害の分類と特徴 15. まとめ (授業の進捗状況により回数と内容ははずれることがある。資料は1章ないし2章分先の会の分を用意して講義に臨むこと)				
④テキスト・参考書	④テキスト:講義に先立って講義資料をプリントして持参すること。講義資料は Kibaco からダウンロードしておくこと。ダウンロードがうまくいかない場合は次のメールアドレスを通して連絡のこと。 sigeta@tmu.ac.jp 参考となる書籍:「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学」医学書院				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験の得点率で評価する。出席状況は加味しない				
⑥特記事項					

科目名	M210 薬理学概論	科目種別	理学・作業 1年・選択 放射1年必修	単位数	1
担当教員	木村 直史 *	後期・前半	木曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	①授業方針:主に講義を中心に行うが、受講者のレベルに応じて、随時、質問を受け付ける。テーマ:生理学・生化学の基礎知識をふまえて、薬物の作用発現のメカニズム(作用機序)と生体との相互作用について学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②よく使われる薬物の作用とその作用点および作用機序について概説できる。一般的な薬物の体内動態について概説できる。薬効に影響する因子について概説できる。神経・筋疾患、精神疾患の治療薬の作用機序および主作用と副作用について概説できる(理学療法士・作業療法士および診療放射線技師の国家試験に出題される薬理学に関連する問題を解くことができる)。				
③授業計画・内容	③授業計画・内容 第1回 薬物の作用とその作用点・作用機序 第2回 薬物の体内動態(生体内運命) 第3回 薬物効果に影響を及ぼす因子 第4回 末梢神経系に作用する薬物:局所麻酔薬、筋弛緩薬、自律神経作用薬 第5回 中枢神経系に作用する薬物:抗精神病薬、気分安定薬、抗うつ薬、抗不安薬・睡眠薬 第6回 中枢神経系に作用する薬物:抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、鎮痛薬 第7回 放射線科で用いられる薬剤(造影剤を中心に)・その他の薬物 第8回 筆記試験と解説・まとめ				
④テキスト・参考書	④テキストは特に指定しない。授業中に適宜、プリントを配布する。参考書としては、PRINCIPLES OF PHARMACOLOGY edited by Golan, DE. LWW を推奨するが、授業のために購入する必要はない。				
⑤成績評価方法	⑤最後の講義において筆記試験を実施する。最終日(第8回)に授業した内容から筆記試験を行なう。筆記試験結果(約70%)と出席状況(約30%)を総合して評価する。				
⑥特記事項	⑥各論は、神経・筋疾患、精神疾患の治療薬を中心に扱う予定であるが、授業参加者の興味に応じて変更することがある。教員の都合により講義日を変更することがあるので注意すること。				

科目名	M214 生化学	科目種別	理学・作業 1年・選択	単位数	1
担当教員	渡辺 賢		後期・前半		月曜日
①授業方針・テーマ	①生化学は、人体を物質の観点から探る学問です。生命活動に必要な物質、特に有機化合物の性質と働き、更に体内におけるそれらの物質の変化(代謝)を学ぶことで、生命活動の本質を追求します。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②生命活動に必要な物質の機能と、それらの代謝機構を理解することが目標です。				
③授業計画・内容	③項目1: 遺伝子情報の維持と発現 (DNAの構造と複製、RNAの構造と合成、タンパク質合成) 項目2: タンパク質の構造と機能 項目3: 酵素 項目4: 中間代謝-1 (生体エネルギー学と酸化的リン酸化、糖質とは、解糖系) 項目5: 中間代謝-2 (トリカルボン酸回路、糖新生、グリコーゲン代謝) 項目6: 脂質代謝 項目7: 窒素代謝 (アミノ酸代謝、ヌクレオチド代謝) 項目8: 細胞内と細胞間の情報伝達、まとめ 課題を解き、纏めて表す力を涵養するため、定期的に文章題を提示いたします。				
④テキスト・参考書	④参考書: イラストレイテッド 生化学[原書4版] 石崎泰樹/丸山 敬監訳 丸善を挙げますが、特に指定ではありません。自分で読みやすいもの(簡単なものでも良い)を一冊購入して読むことを勧めます。				
⑤成績評価方法	⑤定期試験(90%)、受講態度(10%)				
⑥特記事項	⑥祝日や教員出張等により講義日・時間を変更することがあるので注意してください。 理学・作業療法学科 1年生で、高校で生物・生命科学を履修しなかった者は、出来る限り履修するように。 ⑦質問等は渡辺 賢 masaru@tmu.ac.jp まで願います (@は半角に変えてください)。				

科目名	M224 生活支援環境学	科目種別	理学・作業 1年・選択	単位数	2
担当教員	橋本 美芽、吉川 和徳 *		後期		火曜日
①授業方針・テーマ	①本講義は、環境面からの支援と身体特性面からの支援、これら2つの視点から講義を構成します。前半では、高齢者・障がい者の安全と生活の支援、特に移動の安全を支援する施設環境、都市環境、住まいについて視野を広げるための基礎知識の習得を目指します。後半では、車いす座位について理解し、座位姿勢を保持するさまざまな手法や用具について具体的な技術を紹介しながら知識の習得を目指します。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②橋本:生活環境の改善と整備は、障害のある人が自立して生活するために欠かせない条件です。病院や施設でも障害のある人が快適に過ごせるような環境づくりが求められます。本講義では、快適な環境の基礎知識について安全性や機能性の面から解説し、理学療法士・作業療法士として生活や移動動作を支援する立場から物理的環境についての理解を深めます。 吉川:今日的な障害のとらえ方としての国際生活機能分類(ICF)の概念に基づいて、心身機能や活動・参加とそれに影響を与える環境因子との関係性について整理した上で、その概念に基づいて理学療法や作業療法を展開する方法論について解説します。具体的には「シーティング」を例に、理学療法・作業療法に必要な生活支援環境学の視点を学び、さらに今後ますます重要となる専門職協働(IPW)における理学療法士・作業療法士に求められる役割についても理解を深めます。				
③授業計画・内容	③授業計画は以下の通りです。 第1回 ガイダンス(講義概要の説明)(橋本) 第2回 バリアフリーとユニバーサルデザイン(橋本) 第3回 生活支援としての環境のとらえ方(橋本) 第4回 移動障がい者のための環境整備①(橋本) 第5回 移動障がい者のための環境整備②(橋本) 第6回 高齢者・障がい者の居住の現状(橋本) 第7回 福祉のまちづくり(橋本) 第8回 中間試験と解説(橋本) 第9回 国際生活機能分類(ICF)の概念整理と生活機能障害の理解(吉川) 第10回 理学療法・作業療法におけるシーティング①(吉川) 第11回 理学療法・作業療法におけるシーティング②(吉川) 第12回 理学療法・作業療法におけるシーティング③(吉川) 第13回 理学療法・作業療法におけるシーティング④(吉川) 第14回 専門職協働(IPW)における理学療法士・作業療法士の役割(吉川) 第15回 期末試験と解説(吉川)				
④テキスト・参考書	④参考資料: 吉川和徳・光野有次・著:「シーティング入門 座位姿勢評価から車いす適合調整まで」中央法規出版				
⑤成績評価方法	⑤成績評価の方法は、橋本 50点、吉川 50点、合計 100点として成績を評価します。また、講義の進行、他の受講者の迷惑となる受講態度は減点の対象とします。				
⑥特記事項	⑥規定以上の出席日数を満たさなければ単位取得は認められません。また、遅刻・早退は減点の対象となる場合があります。				

科目名	M225 保健医療臨床心理学	科目種別	理学・作業 1年・必修	単位数	2
担当教員	藺牟田 洋美		後期		水曜日
①授業方針・テーマ	①臨床心理学の諸領域の中から、保健医療の領域で人を理解するために必要な心理アセスメントとカウンセリングについて講義する。心理アセスメントの実際として心理テストを実施する予定である。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②臨床心理学とは、心理的健康や障害に関する諸問題を対象とする心理学の一領域である。本講義では、臨床心理学の対象と方法から始めて、保健・医療・福祉などの場面で必要とされる心理学的知識と、その実践場面を想定した講義を行う。また、テストなどを通して明らかになった対人交流の仕方から医療場面における自己に関する理解を深めることを目標とする予定である。				
③授業計画・内容	③スケジュールは以下のように考えているが、進行状況に合わせて変更する可能性がある。 1. 保健医療臨床心理学とは—その対象と方法 2. 心理テストの実施：質問紙法(1) TEGテストの実施 3. 心理テストの実施：質問紙法(2) TEGテストの分析と解釈 4. 心理テストの実施：質問紙法(3) TEGテストの分析と解釈 5. 心理療法1-1)：交流分析とは：その理論と応用(1) 6. 心理療法1-2)：交流分析とは：その理論と応用(2) 7. 心理療法1-3)：交流分析実践編：医療場面における患者の心理を理解する 8. 健康と心理との関係1)：高齢者を例に 9. 健康と心理との関係2)：高齢者を例に 10. 心理療法2)：精神分析における防衛機制や無意識を含む深層心理に関連する諸現象について 11. 心理療法3)：行動療法の理論と内容について 12. 心理療法4)：認知行動療法の理論と内容について 13. 心理療法5)：表現療法の理論と内容について 14. カウンセリングについて 15. まとめ				
④テキスト・参考書	④特に指定しない。必要に応じて参考書などを紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤複数のレポート課題(40%)と期末試験(60%)をあわせて総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥受講生が多数の場合には、心理テストは実施せず、講義形式に変更することもある。				

科目名	M300 関係法規(理学・作業)	科目種別	理学・作業 1年・選択	単位数	1
担当教員	和泉澤 千恵 *		前期・前半		木曜日
①授業方針・テーマ	①医療をとりまく各種法規の理解を通じて、医療全体における各法規の位置づけを把握する。講義は配布レジュメに基づいた口頭の講義によって行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②医療をとりまく状況は時代やニーズによって変化し続けているといえよう。このように変化する医療現場において、自らの業務の在り方を考えるためには、医療の理念や、医療を提供する施設・人に関する制度、医療従事者等の業務内容などについて規定する法規を概観し、理解しておくことが必要である。また、それら法規が医療全体においてどのような位置づけにあるかを理解することも必要不可欠である。 各種法規の理解を通じて職種をとりまく状況・課題を検討する一助となるような講義を行うことを目標とする。				
③授業計画・内容	③第一回：関係法規…法とは何か？衛生法規とは何か？ 第二回：「基本理念」と「場」に関する法規…医療の基本理念と医療を行う場所に関する法規 第三回：「人」に関する法規…医療関係者に関連する法規 第四回：「人」に関する法規と訴訟…医療関係職種の過誤に関連する裁判例 第五回：「物品」に関する法規…医療に用いられる物品の製造・販売などに関連する法規 第六回：公衆衛生・福祉に関する法規…保健・予防・環境・社会保障に関連する法規 第七回：労働に関する法規…労働に関連する法規 第八回：まとめ、試験 ※なお、内容が多岐にわたるため、講義進度によっては扱えない内容が生じる場合がある。				
④テキスト・参考書	④テキスト・参考書毎回レジュメを配布する予定である。テキスト、参考書等については購入しなくてもよい(テキストについては、所持していることが望ましいが、初回講義の説明を聞いた上で、各自、テキスト購入の有無を検討のこと)。詳しくは初回の講義時に説明する。 * テキスト(必ずしも購入を要さない)：森山幹夫「統計看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令[第48版]」医学書院 * 参考書等：「医療六法平成28年度版」中央法規、などの法令集 ・金川琢雄「医療スタッフのための実践医事法学」金原出版株式会社 ・菅野耕毅「医事法学概論 第2版」医歯薬出版株式会社 ・久々湊晴夫・旗手俊彦 編著「はじめての医事法」成文堂 など…				
⑤成績評価方法	⑤第八回授業で実施する筆記試験の成績のみによって評価する。				
⑥特記事項	⑥看護学科「保健医療福祉行政論」(必修)と合同で開講されます。このため、主たる講義内容が看護に関連したものとなることをご理解いただいた上での受講をお願いします。				

科目名	M299 感染・免疫学	科目種別	看護・1年・必修 理学・作業・放射・1年・選択	単位数	1
担当教員	菅又 昌実	後期・後半		月曜日	5時限
①授業方針・テーマ	①感染症は、体内に侵入・増殖した病原微生物と、それに対する人体の防御機構とのせめぎあいの結果様々な病像を呈する。本講義では、パラメディカルに進む者にとって病原微生物と人との関わりあいの基本像を理解することを目的に講義を行う。また地球レベルでダイナミックに変化している感染症の生態学についてもその現状を把握し、効果的な予防対策の基本を学ぶ。院内感染予防の具体策についても具体策の基本を理解させる。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②感染症の成立に関わる3つの因子(病原性微生物・感染経路・人の感染抵抗性)について、感染症学、及び免疫学の基本知識を理解し、身体が持つ感染症に対する抵抗性のメカニズムの概略を理解することを講義の目的とする。新興・再興感染症の生態学とその変化の理由についても概略を理解し、感染症予防のための基本的知識を与える。講義に共通する意義は医学周辺領域で、院内感染を防止するために必須の事項を理解することである。				
③授業計画・内容	③1回:ヒトと病原微生物との関わり合い-感染現象の基本像 2回:病原微生物の基本的性質 3回:ヒトの感染防御機構-現代の免疫学が明らかにしたこと-1 4回:ヒトの感染防御機構-現代の免疫学が明らかにしたこと-2 5回:世界の感染症発生の状況-その疫学像 6回:感染症の予防対策-医療施設レベル 7回:感染症の予防対策-地球レベル 8回:まとめ				
④テキスト・参考書	④教科書:担当教員が準備した教科書に相当する資料を健康福祉学部ホームページ上に事前掲載する。 参考書:初回講義時に所持することが望ましい成書等を紹介する。 環境と健康の科学(菅又他、南山堂)、日本における伝染病との闘いの歴史(菅又 医学評論社。) その他参考書は随時紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤講義期間の間に提出する小レポート、及び最終レポートにより評価する。基本的にすべての講義を受講した者について評価を行なう。看護学科学生で1回でも欠席がある者は別途対応する。				
⑥特記事項	⑥基本的に担当者が作成した資料を基に講義を行う。				

科目名	M215 解剖学Ⅱ	科目種別	理学・作業 2年・必修	単位数	1
担当教員	易 勤	前期		金曜日	1 時限
①授業方針・テーマ	①すべての内臓系の系統解剖の基礎的知識を講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②各臓器の形態的特徴、機能との関連を理解し、しっかりと説明できる。				
③授業計画・内容	③前期前半(講義): 1) 消化器系(2コマ) 2) 呼吸器系(2コマ) 3) 循環器系(2コマ) 4) 泌尿器系(2コマ) 5) 生殖器系(2コマ) 6) 内分泌器系(2コマ) 7) 感覚器系(2コマ)				
④テキスト・参考書	④テキスト:野村巖 編集「標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 解剖学」(医学書院)第3版 2010年03月発行 参考書:中野隆 監訳「Essential 解剖学 テキスト&アトラス」(南江堂)2015年4月発行				
⑤成績評価方法	⑤受講態度(10%)および筆記試験(90%)によって評価する。				
⑥特記事項	⑥国家試験科目であり必修である。				

科目名	M228 解剖学実習	科目種別	理学・作業 2年・必修	単位数	2
担当教員	易 勤	通年		金曜日	1,2 時限
①授業方針・テーマ	①解剖学Ⅰ, 解剖学演習, 人体解剖の見学実習で学習をしたことを, 実際の人体標本, 骨標本, 動物標本等で確かめ, さらに人体構造の理解を深める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②人体解剖学実習, 動物の解剖学実習を通して, 1年次に学習した人体構造と各器官の関連を直接解剖することを通して把握し, 確認する。骨学実習を通して, 運動器系の基礎である骨を観察, スケッチし, 特に骨・関節と筋による四肢・体幹の運動について学ぶ。さらに顕微鏡をつかった組織学の実習も行い, 細胞レベルでの構造と機能を理解する。				
③授業計画・内容	③前期後半 1.人体解剖学見学実習Ⅰ(6コマ) 2.骨学実習(7コマ) 3.組織学実習(3コマ) 後期 4.ブタ胎児の解剖学実習(9回×2コマ) 5.人体解剖学見学実習Ⅱ(8コマ)				
④テキスト・参考書	④テキスト:特に定めない。資料を講義時に配布する。 参考書:中野隆 監訳「Essential 解剖学 テキスト&アトラス」(南江堂)2015年4月発行				
⑤成績評価方法	⑤出席, 受講態度 10%, 実習ノートの提出 10%, 実習筆記試験 80%により評価する。				
⑥特記事項	⑥国家試験科目であり必修である。				

科目名	M218 外科学	科目種別	理学・2年・選択 作業・2年・必修	単位数	2
担当教員	黒井 克昌 *、渡辺 賢、西村 ユミ、他	前期・後半	月曜日		4,5 時限
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 ④テキスト・参考書 ⑤成績評価方法 ⑥特記事項	<p>①②将来、医療に携わる関係者として、外科系の患者を扱う際に必要な基本知識について概説する。幅広い外科学領域に係る総論・各論の講義を通して、外科学の基本的な知識と最新の情報を提供する。</p> <p>③1回：外科学の歴史と外科的思考 2回：外科学総論 3回：創傷治癒、褥創の予防と治療、及び皮膚移植 4回：麻酔学 5回：心臓・血管外科 6回：上部消化管外科 7回：下部消化管外科 8回：肝・胆・膵外科 9回：泌尿器科学 10回：呼吸器外科 11回：臨床腫瘍学及び乳腺・内分泌外科 12回：婦人科学 13回：脳神経外科 14回：救急医学 15回：まとめ・試験</p> <p>④教科書：特に指定しない。 参考書：標準外科学第13版、医学書院 推薦図書：北村聖総編集、臨床病態学1～3、ヌーベルヒロカワ</p> <p>⑤筆記試験の結果等をもとに総合的に評価する。</p> <p>⑥多くの臨床医で分担して講義を行なうため、上記の講義スケジュールを変更する場合がある。</p>				

科目名	M236 健康管理論	科目種別	看護2年必修 作業2年選択 理学3年選択	単位数	1
担当教員	坂本 なほ子 *	夏季集中			
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 ④テキスト・参考書 ⑤成績評価方法 ⑥特記事項	<p>①健康管理とは、疾病を予防し、健康を保持増進するために、個人や集団に対して生涯を通じて行う幅広い活動である。本講義では、第一に健康についての考え方や理解を深める。次に、我が国の疾病構造の推移と諸外国との差を十分理解した上で、健康管理の方法について、一次予防・二次予防の立場から学ぶことを目的とするものである。疫学的証拠を健康づくりに応用する際の考え方を中心に講義する。</p> <p>②西洋における健康観および健康管理の変遷、近年の日本の健康状態および健康管理の変遷、および、集団における健康管理の方法を学ぶことを目的とする。</p> <p>③主に講義形式で進める。 第1回：健康の概念-1 第2回：健康の概念-2 第3回：健康指標と現状-1 第4回：健康指標と現状-2 第5回：健康づくり政策の変遷、健康増進法 第6回：健康管理概念とその方法 第7回：健康管理活動 第8回：試験・解説</p> <p>④参考書：「医学の限界」新興医学出版社、「国民衛生の動向」</p> <p>⑤期末試験(100%)</p> <p>⑥連絡メールアドレス：sakamoto-n@ncchd.go.jp</p>				

科目名	M230 小児科学	科目種別	理学・作業 2年・必修	単位数	1
担当教員	磯島 豪 * 他	後期・前半		月曜日	2 時限
①授業方針・テーマ	①小児保健学、小児病学を平易に総合的に学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②PT、OTが将来小児リハビリテーションを行う場合に、小児を全人的に理解ができるように、小児保健・小児疾患の知識を総合的に会得し、他の医療スタッフと同一レベルで医療行為が可能になることを目標とする。				
③授業計画・内容	③1回：小児の成長・発達、小児の栄養 2回：新生児・未熟児、先天奇形・遺伝 3回：神経・筋・骨系統疾患、呼吸器疾患 4回：感染症、免疫・アレルギー疾患・膠原病 5回：血液疾患・腫瘍性疾患、内分泌・代謝疾患 6回：循環器疾患、消化器疾患 7回：腎・泌尿器疾患、生殖器疾患				
④テキスト・参考書	④教科書：なし(プリントを用いる) 参考書：「標準理学療法・作業療法学 小児科学 第4版」富田豊編医学書院(準教科書) 「小児科学第7版」中山健太郎、矢田純一編 文光堂 「NEW小児科学 改訂第2版」清野佳紀、小林邦彦、原田研介、桃井眞理子編 南江堂				
⑤成績評価方法	⑤教室での授業態度(特に出席について)、試験成績を合わせて評価する。				
⑥特記事項	⑥追試、再試は原則1回のみ行う。				

科目名	M204 神経内科学 I	科目種別	理学・作業 2年・必修	単位数	2
担当教員	木下 正信	後期		木曜日	1 時限
①授業方針・テーマ	①神経内科学は神経・筋に由来する疾患であり、現在の在宅医療とも深いつながりを有している。難病と言われる病態も数多くあり、患者及びその家族の苦労を考慮しながら神経難病の苦しみを医療従事者を目指す学生に理解してもらえるように講義を進める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②神経解剖学の概要を把握させ、臨床神経病学の各疾病の病態生理学を把握させることを目標とする。				
③授業計画・内容	③項目 1-4 脳血管障害(脳血栓、脳塞栓、クモ膜下出血の病態・診断・治療) 項目 5 脳血管障害の画像 (CT, MRI) 項目 6 錐体外路性疾患 I (パーキンソン病の病態を中心に) 項目 7 錐体外路性疾患 II (孤発性・遺伝性パーキンソン病の病態と神経病理像) 項目 8 錐体外路性疾患 III (パーキンソン病の薬理学的見解と治療) 項目 9 錐体外路性疾患 IV (パーキンソン病以外の疾患) 項目 10 脊髄小脳変性症(孤初性) 項目 11 脊髄小脳変性症(遺伝性) 項目 12 脱髄性疾患 I (多発性硬化症) 項目 13 脱髄性疾患 II (多発性硬化症の鑑別疾患 (HAM, SMON)) 項目 14 下垂体腫瘍、項目 15 髄膜炎・脳炎				
④テキスト・参考書	④参考書：「ベッドサイドの神経」田崎義昭編 講義の度に資料として、プリントを配布する。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況(約 10%)、受講態度(約 10%)並びに単位認定試験(約 80%)などを総合し評価する。				
⑥特記事項	⑥授業計画・内容は、学生の理解度に合わせて時に変更する場合がある。				

科目名	M227 神経内科学Ⅱ	科目種別	理学・2年・必修 作業・2年・選択	単位数	2
担当教員	木下 正信	後期・前半	木曜日 金曜日	2時限 3時限	
①授業方針・テーマ	①神経内科学は神経・筋に由来する疾患であり、現在の在宅医療とも深いつながりを有している。難病と言われる病態も数多くあり、患者及びその家族の苦労を考慮しながら神経難病の苦しみを医療従事者を目指す学生に理解してもらえるように講義を進める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②神経解剖学の概要を把握させ、臨床神経病学の各疾病の病態生理を把握させることを目標とする。				
③授業計画・内容	③項目1～項目3 末梢神経障害(ギラン・バレー症候群、フィッシャー症候群) 項目4～項目5 脊髄性変性疾患(筋萎縮性側索硬化症) 項目6～項目8 神経筋接合部障害(重症筋無力症、ランバート・イートン筋無力症候群) 項目9 神経筋接合部障害の世界的動向(チャンネル病を含めて) 項目10 神経疾患と遺伝 項目11～項目12 筋疾患Ⅰ(Duchenne型、Becker型筋ジストロフィー) 項目13 筋疾患Ⅱ(顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー、肢帯型筋ジストロフィー、ミオトニア症候群) 項目14 下垂体腫瘍Ⅰ 項目15 中枢神経の感染症(髄膜炎、脳炎)				
④テキスト・参考書	④参考書:「ベッドサイドの神経」田崎義昭編 講義の度に資料として、プリントを配布する。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況(約10%)、受講態度(約10%)並びに単位認定試験(約80%)などを総合し評価する。				
⑥特記事項	⑥授業計画・内容は、学生の理解度に合わせて時に変更する場合がある。				

科目名	M208 整形外科Ⅰ	科目種別	理学・作業 2年・必修	単位数	2
担当教員	入内島 崇紀 * 他 *	前期・前半	月曜日	4, 5時限	
①授業方針・テーマ	①②整形外科は外科系医学のうちで骨・関節・筋・靭帯・末梢神経などの運動器疾患を扱う分野である。整形外科Ⅰでは、疾患総論と外傷学を中心に、多くの疾患のうちから主要となる各疾患の病態、症状、診断、治療、予後の概要を講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標					
③授業計画・内容	③ 1回:総論① 2回:総論② 3回:股関節、膝関節疾患① 4回:股関節、膝関節疾患② 5回:外傷・骨折、脱臼・熱傷、末梢神経損傷(腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷・胸郭出口症候群)感染症(骨髄炎)① 6回:外傷・骨折、脱臼・熱傷、末梢神経損傷(腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷・胸郭出口症候群)感染症(骨髄炎) 7回:遺伝、内分泌・代謝・骨粗鬆症・先天性以上、系統疾患 8回:腫瘍、骨壊死性疾患 9回:切断(小児の先天性奇形を含む) 10回:脊髄損傷 11回:関節リウマチとその辺縁疾患 12回:スポーツ外傷・障害(靭帯損傷など) 13回:肩関節疾患(肩関節周囲炎、腱板損傷など) 14回:脊椎疾患(腰痛症、椎間板ヘルニア、脊椎症、脊髄損傷) 15回:試験及び解説				
④テキスト・参考書	④テキスト:「標準整形外科学」鳥巢岳彦・国分正一総編集医学書院				
⑤成績評価方法	⑤試験成績による。				
⑥特記事項	⑥講義の順序・内容は、若干変更することがある。				

科目名	M231 整形外科Ⅱ	科目種別	理学・2年・必修 作業・2年・選択	単位数	2
担当教員	猪飼 哲夫 * 他 *	後期・前半	金曜日	4,5 時限	
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 ④テキスト・参考書 ⑤成績評価方法 ⑥特記事項	<p>①②整形外科Ⅰに引き続き、整形外科Ⅱでは、各整形外科疾患について、病態、症状、診断、治療、予後の概要をリハビリテーションを含め講義する。</p> <p>③ 1回:リウマチ・骨粗鬆症とリハビリテーション(1) 2回:リウマチ・骨粗鬆症とリハビリテーション(2) 3回:脊椎疾患とリハビリテーション(1) 4回:脊椎疾患とリハビリテーション(2) 5回:人工関節の歴史と未来 6回:肩関節疾患 7回:スポーツによる膝関節疾患 8回:脊柱管狭窄症 9回:小児疾患、手の外科疾患 10回:膝関節の解剖とバイオニクス 11回:骨粗鬆による骨折の管理について 12回:整形外科領域の傷害管理(肩、肘関節) 13回:整形外科領域の傷害管理(膝、腰、足関節) * 講義の順番は変更することがあります</p> <p>④参考書:「標準整形外科学」鳥巢岳彦・国分正一総編集医学書院 ⑤試験成績による。</p>				

科目名	M222 精神医学Ⅱ	科目種別	理学・2年・選択 作業・2年・必修	単位数	2
担当教員	繁田 雅弘	前期	火曜日	3 時限	
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 ④テキスト・参考書 ⑤成績評価方法 ⑥特記事項	<p>①精神障害者の示す症状は教科書に記載された通りではなく、個々の人間によって様々に異なり、それは人格や生育歴、生活歴、環境要因などによって影響される。この授業では、患者の持つ症状は様々な要因によって修飾されること、そしてその人の生活や人生に様々な形で影響を及ぼすことを症例を通して理解する。</p> <p>②精神医学Ⅰの復習をしながら、症例を通して人生や生活への精神障害の影響を理解する。精神障害の経過を通して、障害を持つ患者がどのような生活を強いられるのか、人生の可能性を制限されるのか、どのように症状や障害と付き合っていくのかについて理解を深める。患者の持つ精神症状は様々な要因が影響した結果であることを理解し、複眼的な視点で病像を理解することを目標とする。</p> <p>③全 15 回の授業において、下記の症例を取り上げる。ただし疾患の順序は変更することがある。 総合失調症 気分障害 神経症性障害 パーソナリティ障害 心的外傷後ストレス障害 解離性障害 認知症 小児と発達 妄想 その他の精神障害</p> <p>④テキスト:講義に先立って講義資料をプリントして持参すること。講義資料は Kibaco からダウンロードしておくこと。ダウンロードがうまくいかない場合は次のメールアドレスを通して連絡のこと。 sigeta@tmu.ac.jp 参考となる書籍:「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野精神医学」医学書院</p> <p>⑤筆記試験の得点率をもって評価とする。出席状況は加味しない。 ⑥積極的に質問をすること</p>				

科目名	M205 生理学実習	科目種別	理学・作業 2年・必修	単位数	1
担当教員	渡辺 賢、鈴木政登*、菊池吉晃、中原直哉*	前期	水曜日		3,4,5 時限
①授業方針・テーマ	①生理学実習は、人体機能の諸現象のいくつかを取り上げ、実験機器を用いてそれらの現象を実地に体験し、その原理について論理的に考察し、理解すること。また体験した実習内容をレポートしてまとめる力を見につけることを目的とします。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②実験科学の方法論に基づいて、自ら実験を行い結果を解析して現象の原理を考察する体験を行うことで、分析的・論理的な自然科学の基本的思考過程を涵養することを目的とします。更に行った実験の概要を他人が読んで理解できるように、実験内容を文章によって再構築して報告書として取りまとめることができる能力の涵養も目指します。				
③授業計画・内容	③<実習項目> 原則として1項目2回で実施する。実験のみならず実験に必要な基礎知識と実験手技の教授、更に実験後のレポート作成と添削を時間内に実施します。()は主担当者名 項目1(第1回):実習総論(渡辺) 項目2(第2,3回):感覚生理学—2点弁別閾値(渡辺、中原) 項目3(第4回):筋肉生理学—表面筋電図(渡辺、中原) 項目4(第5回):神経生理学—活動電位発生のシミュレーション(渡辺、中原) 項目5(第6回):腎機能—水負荷による尿量及び尿比重、クレアチニンクリアランスの変化(渡辺・鈴木) 項目6(第7,8回):血圧・循環動態:血圧の意義、体位変換等による血圧変動推移(鈴木・渡辺) 項目7(第9,10回):心電図(基本的判読、電気軸測定、運動・呼吸負荷)(渡辺・鈴木) 項目8(第11回):脳機能イメージング法でみる高次脳機能:機能的磁気共鳴画像法(fMRI: functional magnetic resonance imaging)(菊池) 項目9(第12,13回):細胞内情報伝達(渡辺、中原)—筋収縮実験による細胞内Ca ²⁺ 調節機構の解析(渡辺) 項目10(第14,15回):消化酵素の生化学と生理学(渡辺・鈴木):分光光度法による唾液アミラーゼ測定とストレス負荷によるアミラーゼ活性変動の測定				
④テキスト・参考書	④適宜、プリント等の配布、HP上での掲示を行います。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況(約25%)、受講態度(約25%)並びにレポート(約50%)などを総合的に評価します。				
⑥特記事項	⑥祝祭日および教員出張・会議のため実習項目・時間・担当教員を変更する場合があります、その場合には学生に不利益が生じないように伝達します。 ⑦質問等は渡辺 賢 masaru@tmu.ac.jp まで願います (@は半角に変えてください)。				

科目名	M220 病態学 I	科目種別	理学・作業 2年・必修	単位数	1
担当教員	相羽 元彦 *	前期・前半	木曜日		4 時限
①授業方針・テーマ	①自学自習、そして友人と相互の討論による勉強が望ましい。読む聴く話す書くことにより、各自の知識状態を確認しよう。限られた時間内に効率的に病態学が理解できるように、プリント・画像を配布し、写真・図表・文字情報によるパワーポイントをういた講義を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②疾病の原因と成立ち、その経過と転帰を、形態学的・機能的観点から理解する。諸疾患を体系的に理解する。				
③授業計画・内容	③1回:病態学とは:医学の歴史、病因論、公害病と医原病、疾病の分類、医療における病理の役割 先天異常:奇形の原因と種類、染色体と遺伝子の異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療 2回:代謝異常I:変性、壊死・アポトーシス・ネクロトーシス、オートファジー、萎縮・肥大・過形成、化生 代謝異常II:タンパク質・糖・脂質・その他の代謝異常、尿毒症・糖尿病・肥満・黄疸・痛風 3回:修復と再生:組織傷害と再生・化生、創傷治癒・肉芽組織と瘢痕・異物の処理 循環障害I:循環器系と微小循環、充血・うっ血・虚血・出血・血栓症・塞栓症 4回:循環障害II:梗塞(分類・転帰)、側副循環・ショック、リンパの循環障害(浮腫・濾出液と滲出液) 炎症:炎症とは、炎症の原因・発現機序・治癒/転帰、炎症の分類、炎症の治療 5回:免疫機構の異常I&II:自然免疫と獲得免疫に関わる細胞。アレルギー(即時型・細胞傷害型・免疫複合体型・遅延型)と自己免疫疾患、免疫不全、移植(同種移植と拒絶反応、GVH反応) 6回:感染症:寄生虫・原虫・真菌・細菌(スピロヘータ・リケッチアを含む)・ウイルス・プリオンと疾患 腫瘍I:腫瘍の定義と分類、腫瘍発生の要因、遺伝子異常と発癌因子、素因、腫瘍の疫学 7回:腫瘍II:悪性腫瘍の異型度・分化度・悪性度、増殖と広がり方・進行度、腫瘍の診断と治療 腫瘍III:癌組織における癌幹細胞・癌前駆細胞とニッチ。cf.胚性幹細胞・iPS細胞 8回:老化と死:老化と長寿、加齢に伴う個体の変化、老化と疾病、死の3徴候、脳死と植物状態試験				
④テキスト・参考書	④教科書:シンプル病理学 2015 参考書:標準病理学 第4版 坂本穆彦 他編 医学書院 2015 Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease, 9th ed., Kumar V, et al. Elsevier Saunders, Philadelphia 2015.				
⑤成績評価方法	⑤⑥筆記試験の成績と出席状況、適宜行われるクイズの成績をあわせて総合的に評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M285 病態学Ⅱ	科目種別	理学・作業 2年・選択	単位数	1
担当教員	相羽 元彦 *	前期・後半	木曜日		4 時限
①授業方針・テーマ	①病態学Ⅱ(総論)の知識の上に立って、疾病発生のある諸臓器・組織の機能的形態学的特性と諸疾患の特徴を、Ⅱ(総論)と同様の形式で講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②身体を構成する諸臓器・器官系統はそれぞれに形態学的・機能的特徴を有している。それを理解した上で、そこに発生する各疾患の診断・治療・転帰の臨床病理・病態学を体系的に学習する。				
③授業計画・内容	③1回:循環器系Ⅰ:心臓の構造と発生・心奇形、心弁膜症、心内膜炎・心筋炎、心筋症、狭心症と心筋梗塞 循環器系Ⅱ:高血圧、動脈硬化症・動脈炎・動脈瘤、静脈・リンパ管疾患、心・血管腫瘍 2回:呼吸器系Ⅰ:気管支肺炎・間質性肺炎・結核・肺線維症、閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患 呼吸器系Ⅱ:肺癌、上気道疾患(炎症・悪性腫瘍)、胸膜炎、アスベスト症と悪性中皮腫 3回:上部消化管:食道炎・口腔舌食道癌、H.pyloriと胃炎・胃十二指腸潰瘍・胃癌 下部消化管:虫垂炎、虚血性腸疾患、クローン病・潰瘍性大腸炎、ポリープと腺腫・癌 4回:消化器系Ⅲ:ウイルス性肝炎・肝硬変・肝癌、胆石症・胆道癌、膵炎・膵癌、唾液腺疾患 造血器系:貧血、白血病・悪性リンパ腫、炎症、その他の骨髄・脾・リンパ節・胸腺疾患 5回:内分泌代謝系:下垂体腺腫、橋本病・甲状腺癌、Cushing 症候群・アルドステロン症、糖尿病 皮膚疾患:苔癬・乾癬・接触性皮膚炎・天疱瘡・サルコイドーシス・紫斑病、皮膚癌・黒色腫 6回:泌尿器系:糸球体腎炎・ネフローゼ症候群・腎盂腎炎・腎腫瘍、尿路結石・膀胱炎・尿路腫瘍 生殖器系:子宮内膜症・子宮筋腫・子宮癌、胎盤病変、卵巣腫瘍・乳癌、精巣・前立腺腫瘍 7回:脳神経系Ⅰ:脳血管障害・感染症・変性疾患(Parkinson 病・ALS)・認知症(Alzheimer 病など) 脳神経系Ⅱ:脱髄疾患・腫瘍(星細胞腫・膠芽腫・髄芽腫・髄膜腫・胚細胞腫瘍)、末梢神経腫瘍 8回:運動器系:骨粗鬆症・骨折・骨髄炎・骨腫瘍・関節リウマチ・関節症・筋ジストロフィー・筋炎 試験				
④テキスト・参考書	④教科書:シンプル病理学 2015 参考書:標準病理学 第4版 坂本穆彦 他編 医学書院 2015 Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease, 9th ed., Kumar V, et al. Elsevier Saunders, Philadelphia 2015.				
⑤成績評価方法	⑤⑥筆記試験の成績と出席状況、適宜行われるクイズの成績をあわせて総合的に評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M223 リハビリテーション医学	科目種別	理学・作業 2年・必修	単位数	2
担当教員	入内島 崇紀 *	前期・後半	木曜日		5, 6 時限
①授業方針・テーマ	①②リハビリテーション医学の対象となる疾患は、中枢神経疾患、末梢神経疾患、脳性麻痺などの小児疾患、筋ジストロフィーなどの神経筋疾患、脊髄損傷、慢性関節リウマチなどの骨関節疾患、切断、呼吸循環器疾患、疼痛性疾患などである。これらのうちの主要疾患について、病態、症状、診断、予後およびリハビリテーションの治療手段の概要を講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標					
③授業計画・内容	③各授業のテーマと目録 1 人体の構造と機能、体表解剖学・・・リハビリの基礎となる解剖学を復習する。 2 運動器①下肢・・・下肢疾患の概要と治療法について学ぶ 3 運動器②上肢・・・上肢疾患の概要と治療法について学ぶ 4 運動器③脊柱・体幹・・・腰痛、ヘルニアなどの病態と治療について学ぶ 5 スポーツ医学・・・スポーツの現場で起こりやすい疾患と治療について学ぶ 6 脊髄損傷・・・脊髄損傷の病態と治療について学ぶ 7 小児疾患・・・リハビリに関係する小児疾患について学ぶ 8 神経内科疾患・・・神経・筋疾患のメカニズムと治療について学ぶ 9 脳疾患・・・各疾患の病態と治療について学ぶ 10 循環器・呼吸器疾患・・・各疾患の特徴をつかむ 11 救急疾患・・・救急疾患の病態と対応を学ぶ 12 癌のリハビリテーション・・・リハビリがどのように癌に関わるか？ 13 老年医学と介護保険・・・高齢化社会の問題点とリハビリの必要性について学ぶ 14 画像診断学・・・リハビリに必要な画像診断学 15 試験及び解説				
④テキスト・参考書	④教科書は定めない。とくに理学療法、作業療法ではいずれも専門分野であることから、各領域の専門書を備えておくこと。 参考書:「最新リハビリテーション医学」医歯薬出版				
⑤成績評価方法	⑤試験成績				
⑥特記事項					

科目名	M234 公衆衛生学	科目種別	理学・作業2年・選択 放射・2年・選必	単位数	1
担当教員	猫田 泰敏	後期・後半		水曜日	2時限
①授業方針・テーマ	①人間集団を対象として、疾病の予防、寿命の延長、身体的・精神的・社会的健康度の向上を図る学問ないし活動領域である公衆衛生学について系統的に講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②公衆衛生学は人間集団の健康生活を支える予防的な活動分野であること、人々の健康・生活状態に対応して常に発展しつつあることが理解できる。主要な活動内容について理解できる。集団の健康について普段から意識する態度が身につく。				
③授業計画・内容	③第1回：公衆衛生学の概念 第2回：公衆衛生制度の概略 第3回：健康指標 第4回：感染症の予防 第5回：健康づくり対策 第6回：母子保健 第7回：環境と健康 第8回：試験				
④テキスト・参考書	④テキスト：無し。講義資料を配付する。				
⑤成績評価方法	⑤期末試験(100%)				
⑥特記事項	⑥受講者の主体的な学習態度を期待する。				

科目名	医療英語 a	科目種別	全学科・2年・必修	単位数	1
担当教員	J. W. Surya *, 小山田 幸永 *	前期または後期		月曜日または水曜日	学科により異なる
①授業方針・テーマ	①Introduce students to some of the common chronic and acute diseases found in Japanese society.				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②Emphasis is placed on understanding the causes, symptoms, treatment overview, and medications of each disease. Learning and acquiring the necessary English vocabulary words relating to these diseases are also prime objective. In-class talks and activities will enhance students' reading, writing, listening and speaking skills.				
③授業計画・内容	③Class 1: Introduction to Effective Reading Strategies Class 2: Learning Essential Vocabulary Class 3: Complementary Medicine Class 4: Acupuncture Class 5: Metabolic Syndrome Class 6: Coronary Artery Disease Class 7: Parkinson's Disease Class 8: Cerebral Stroke Class 9: Rehabilitation After Stroke Class 10: Introduction to Breast Cancer Class 11: Breast Cancer: Risk Factors Class 12: Diabetes Class 13: Alzheimer's Disease Class 14: Osteoporosis Class 15: Review				
④テキスト・参考書	④テキスト：使用しない。参考図書：適宜紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤Final Examination(学年末試験)60%、In-Class Vocabulary Quizzes(小テスト)20%、In-Class Participation(授業態度・出席)20%				
⑥特記事項	⑥毎回、イヤホンかヘッドホンを持参すること。オフィスアワー無し。連絡先は、授業開始時に提示する。				

科目名	医療英語b	科目種別	全学科・2年・必修	単位数	1
担当教員	石川 陽子	前期または後期	月曜日	学科により異なる	
①授業方針・テーマ	①The course will focus on oral communication, improving listening skills, speaking fluency, and using appropriate and accurate expressions in medical settings. During the course, students will practice English conversation through in-class questioning, role-playing, debate and short presentations.				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②Students will increase their confidence in using Medical English in their careers and to communicate with overseas students.				
③授業計画・内容	③Class 1 Self-introduction: profession, interest, future plans Class 2 Meeting & greeting patients and medical professions Class 3 Interviewing and examining patients (1) Class 4 Interviewing and examining patients (2) Class 5 Giving instruction to patients (1) Class 6 Giving instruction to patients(2)・ Preparing for assessment (Role Play) (1) Class 7 Preparing for assessment (Role Play) (2) Class 8 Review and assessed role play Class 9 Describing a disease to patients (1) Class 10 Describing a disease to patients (2) Class 11 Discussing health care issues (1) Class 12 Discussing health care issues (2) Class 13 Preparing for assessment (Presentation) (1) Class 14 Preparing for assessment (Presentation) (2) Class 15 Review and assessed presentation				
④テキスト・参考書	④Vital signs NANUN-DO				
⑤成績評価方法	⑤中間試験(ロールプレイ)および期末試験(プレゼンテーション)により判定する。				
⑥特記事項	⑥学科毎のレベル別2クラス編成とする。看護学科は看護A・Bクラスを各々2クラスに分ける。				

科目名	M203 内科学	科目種別	理学・作業 2年・必修	単位数	2
担当教員	木下 正信、渡辺 尚彦 *	前期	金曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	①内科学は、臨床医学全般の裾野を形成する領域であり医学の中心的位置を占める。したがって、理学療法学・作業療法学を学習する学生にとっての共通項・中核となる臨床科目であり、疾病の根幹である病態生理まで掘り下げて講義を行う。さらに、医学と患者及びその家族の信頼関係の構築についても講義の中で話していく。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②臨床医学的側面を基礎医学的知識(生理学・生化学)を用いて各臨床分野に応用し、その病態生理を把握させることを目標とする。				
③授業計画・内容	③項目1～項目2 代謝学Ⅰ(メタボリック・シンドロームの診断と病態) 項目3 代謝学Ⅱ(糖尿病の基本的病態を中心に) 項目4 代謝学Ⅱ(糖尿病の合併症を中心に) 項目5 腎臓病学Ⅰ(腎臓の生理学的機能を中心に) 項目6 腎臓病学Ⅱ(慢性腎不全を中心に) 項目7 呼吸器病学Ⅰ(肺の生理学的機能を中心に) 項目8 呼吸器病学Ⅱ(慢性呼吸器疾患を中心に) 項目9～項目12 循環器病学(生理学、心電図、不整脈、狭心症、心筋梗塞、心筋炎、心外膜炎、解離性大動脈瘤、血圧、心不全などの病態について) 項目13 肝臓病学(肝炎ウイルス、肝硬変を中心に) 項目14 内分泌病学 項目15 血液病学				
④テキスト・参考書	④参考書:「内科学」杉本恒明、小俣政男 総編集 朝倉書店 講義の度に資料として、プリントを配布する。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況(約10%)、受講態度(約10%)並びに単位認定試験(約80%)などを総合し評価する。				
⑥特記事項	⑥授業計画・内容は、学生の理解度に合わせて時に変更する場合がある。				

科目名	M211 脳神経外科学	科目種別	理学・作業・2年・必修 放射・3年・選択	単位数	1
担当教員	渡邊 修 *	前期・前半	木曜日	5, 6 時限	
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 ④テキスト・参考書 ⑤成績評価方法 ⑥特記事項	<p>①②脳神経外科学が対象とする中枢神経系疾患の病態生理と治療法を学び、リハビリテーション医学への応用を考える。</p> <p>③1回: 中枢神経系のしくみ 2回: 脳循環および脳代謝 3回: 脳卒中・脳血管奇形 4回: 脳外傷 5回: 中枢神経系感染症 6回: 脳腫瘍 7回: 先天性疾患 8回: 脳神経外科で行われる検査の説明および試験</p> <p>日程 ①4月14日(木曜日)の4限、5限、6限 ②4月28日(木曜日)の5限、6限 ③6月23日(木曜日)の5限、6限 ④試験(日時未定)</p> <p>④適宜紹介 ⑤試験など。</p>				

科目名	M212 教育心理学	科目種別	理学・作業 3年・選択	単位数	1
担当教員	大内 善広 *	夏季集中			
①授業方針・テーマ	①教育心理学の中でも「他者との関わり」と「学び」に焦点を当てます。主に講義によって授業を進めますが、適宜ディスカッションも行う予定です。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②専門職としての技能向上と、集団における問題解決を円滑に行うことのできる考え方を身につけられるようにします。また、医療機関で使われる心理検査等がどのように作られているのかについても理解できるようにします。				
③授業計画・内容	③スケジュールは以下のように考えているが、進行状況に合わせて変更する可能性がある。 1:教育心理学とは何か:教育における心理学, 心理学における教育 2:個人差とは何か:個人差の要因, 個人内差異, 個人間差異 3:学習とは何か:ひとりで学ぶ, 他者と学ぶ, 環境の中で学ぶ 4:動機づけとは何か:自分で高める, 他者を高める, 自己効力感を高める 5:教育評価とは何か:目標の到達状況をどう測るか, なぜ測るのか 6:心理検査とは何か:操作的定義, 妥当性, 信頼性, 尺度 7:教育心理学を使う:理論や知見を仕事にどう生かすか 8:まとめ				
④テキスト・参考書	④資料を配付します。				
⑤成績評価方法	⑤レポート課題によって評価します。詳細は第1回の授業で説明します。				
⑥特記事項					

科目名	M219 社会心理学	科目種別	理学・作業 3年・選択	単位数	1
担当教員	藺牟田 洋美	前期・前半	木曜日	2, 3 時限	
①授業方針・テーマ	①社会心理学のいくつかの研究を通して、自己と他者の関係、社会が個人に及ぼす影響など、「個人」と「社会」との多様な関わり方について講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②個人の認知や行動は、他の人たちとの関わりあいから始まる。この講義の目的は、対人関係や集団のありようが、人の心や行動にいかに関与しているかを理解することにある。受講生が、将来、保健医療の分野において活躍することを踏まえつつ、なるべく実際的な例を挙げて講義したい。また、より効果的な協働作業について体験してもらうため、グループ演習も合わせて取り入れる。人間関係についての基礎的なダイナミズムの理解は、保健医療に従事する上で役立つと思う。積極的な参加を期待したい。				
③授業計画・内容	③スケジュールは以下のように考えているが、進行状況に合わせて変更する可能性がある。 1. 導入と社会的影響(1):他者の存在がいかに関与しているのか 2. 社会的影響(2):多数派の影響・少数派の影響 3. 社会的影響(3):人を説得する方法 4. 集団過程:集団になると仕事ははかどるのか、3人寄れば文殊の知恵? 5. 2者関係:社会的ジレンマ(1)グループ演習 6. 2者関係:社会的ジレンマ(2)グループ演習 7. 2者関係:社会的ジレンマ(3)グループ演習 8. 発表・まとめ				
④テキスト・参考書	④テキストは指定せず、資料を配布する。				
⑤成績評価方法	⑤授業中の小テストやレポート試験(50%) 受講態度:発表および積極性(50%) により行なう。				
⑥特記事項	⑥5月12日・19日・26日・6月2日の2・3限の集中講義となる。				

科目名	M221 障害児教育論	科目種別	理学・作業 3年・選択	単位数	1
担当教員	松浦 孝明 *	前期・前半	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	①下記の授業内容に沿って主に講義するが、特別支援教育におけるOT・PTの役割については特別支援学校見学やディスカッションを行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②障害をもつ子どもを対象とする教育は、2006年に学校教育法の一部が改正されたことにより、2007年度からその枠組みが抜本的に変更され、従来の「特殊教育」は「特別支援教育」に改められた。特別支援教育は、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うことに重点が置かれ、小中学校の通常の学級に在籍する発達障害児(LD、ADHD、自閉症、アスペルガー障害等のある子ども)も含め、多くの子どもたちの教育的ニーズに対応した教育を行うこととなった。その結果、特別支援教育を必要とする子どもは大幅に増加し、2012年に実施した文部科学省の調査では、全小中学生の9.2%に達している。しかしながら、この障害児教育をめぐる大転換も、「障害者の権利条約」(国連が2006年12月に採択したが、日本は6年後の2012年12月に批准)が求めるインクルーシブ教育(障害の有無に関わらず共に学ぶことを原則とする共生社会を形成する教育)には至っておらず、今日特別支援教育のあり方が再度問われている。こうした状況を踏まえて、特別支援教育への制度転換の経緯と内容及び今日的課題について理解し、各種障害の障害特性や発達の特徴について学びつつ、教育方法を検討することを目標とする。さらに、授業を通してOT、PT等の専門職が特別支援教育で果たすべき役割を学んでほしい。				
③授業計画・内容	③授業内容(シラバス) 1回: 障害児教育の理念、障害児教育に関する歴史と国際的動向 2回: 特別支援教育とは何か(経緯、現況、インクルーシブ教育と今後の課題) 3回: 視覚障害児・聴覚障害児の理解と教育課題 4回: 運動障害児、入院中の子ども、重度重複障害児の理解と教育課題 5回: 知的障害の理解と教育課題及び 発達障害とは何か。 6回: 発達障害児(自閉症・LD・AD/HD児)の理解と教育課題 7回: 特別支援学校見学 8回: 試験及び解説				
④テキスト・参考書	④教科書: なし(パワーポイント、DVD使用)、講義時に資料を配布する。 参考文献: (1)日本作業療法士協会(2011年):特別支援教育への作業療法企画モデル案に関する報告、作業療法士協会保健福祉部。 (2)柘植雅義(2013):特別支援教育—多様なニーズへの挑戦—、中央公論新社。				
⑤成績評価方法	⑤試験を実施する。				
⑥特記事項	⑥都内の特別支援学校を見学する機会を設ける。				

科目名	M217 精神保健学	科目種別	理学・作業 3年・選択	単位数	1
担当教員	繁田 雅弘	前期・後半	月曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	①精神障害を有する人々には医療の枠組みで治療やリハビリテーションがなされるが、障害者の生活の質を向上させ、社会復帰を促すためには、それだけでは十分ではない。社会一般の理解や協力も得て援助活動を行うことが望ましい。また精神障害に罹患していない人々に対しても、精神障害を予防しさらなる精神の健康を増進することが必要である。この精神保健学では、様々なライフステージと生活場面における精神障害や精神的ストレスについて、また一般の人々における精神面での健康増進について教授し、精神障害をとりまく今日的課題を自分で考えられ				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②精神障害を含めた、障害者や患者を取り巻く心理・社会的な問題などについて多面的に理解する素養を身につける。				
③授業計画・内容	③1. 精神保健または実地医療に関わるテーマについて、グループで調べて発表する。 参考:平成27年度のテーマ「障害受容」 2. 精神保健の基本的知識の習得(講義) (1) 乳幼児の精神保健 (2) 児童における精神保健 (3) 思春期における精神保健 (4) 成人における精神保健 (5) 高齢者・ターミナルにおける精神保健 (6) 家庭における精神保健 (7) 学校・職場における精神保健 (8) 災害時における精神保健 (ただし授業内容は、時事内容を取り入れたりする結果、変更することがある)				
④テキスト・参考書	④テキスト:講義に先立って講義資料をプリントして持参すること。講義資料は Kibaco からダウンロードしておくこと。ダウンロードがうまくいかない場合は次のメールアドレスを通して連絡のこと。 sigeta@tmu.ac.jp 参考図書:「こころの健康と精神保健」森温理著 医学出版社				
⑤成績評価方法	⑤課題発表や提出した課題により評価する				
⑥特記事項	⑥できるだけ積極的に質問して、主体的に授業に参加しよう				

科目名	M213 画像診断学	科目種別	理学・3年・必修 作業・3年・選択	単位数	1
担当教員	古川 顕	前期・後半	火曜日	2 時限	
①授業方針・テーマ	①理学・作業療法に必要な疾患を中心に、画像診断の基礎を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②代表的画像検査法について理解する。また、臨床現場で遭遇する代表的な疾患を取り上げ、それぞれにどのような画像検査が適応され、どのような画像所見がみられ、診断に至るのかのプロセスを学ぶことを目標とする。				
③授業計画・内容	③第1回から第8回で以下を行う。 画像診断法 病理総論 中枢神経 脊椎・脊髄 運動器神経 X 線写真 胸部疾患 腹部疾患				
④テキスト・参考書	④参考書:「画像診断マスターノート」、土屋一洋、荒川浩明、兼松雅之、新津守編集、MEDICAL VIEW,2005				
⑤成績評価方法	⑤期末筆記試験は行わない。 提出レポート、出席状況				
⑥特記事項					

科目名	M309 言語聴覚治療学概論	科目種別	理学・3年・選択 作業・3年・必修	単位数	1
担当教員	藤田 郁代 *	後期・前半	月曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	①眼に見えない障害である言語コミュニケーション障害と高次脳機能障害、および摂食嚥下障害のリハビリテーションの実際を理解し、作業療法士・理学療法士・言語聴覚士等の専門職が患者を中心としていかに連携すべきかについて学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②言語コミュニケーション障害、高次脳機能障害、摂食嚥下障害の症状、発症メカニズム、生活において生じる問題について理解し、評価・訓練・援助の原則について学ぶ。同時にこのような障害に対し、作業療法士・理学療法士・言語聴覚士等の専門職が患者を中心として協働するのに必要な知識および技能について学ぶ。				
③授業計画・内容	③1回: 言語聴覚障害の種類と特徴 2回: 関連職種連携 2回: 失語症の原因と病態 3回: 失語症のリハビリテーションと職種間連携 4回: 認知症のリハビリテーションと職種間連携 5回: 摂食嚥下障害の臨床と職種間連携 6回: 言語発達障害の臨床と職種間連携 7回: 総括				
④テキスト・参考書	④テキストは指定しない。講義担当者が資料作成し講義時間に配布する。				
⑤成績評価方法	⑤試験				
⑥特記事項					

科目名	M216 老年医学	科目種別	理学・3年・選択 作業・3年・必修	単位数	1
担当教員	小島 太郎 *, 渡辺 賢 他	前期・前半	月曜日		1 時限
①授業方針・テーマ	①高齢者診療に際し、修得すべき知識を、基礎的事項と臨床的事項に分け講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②一般目標: 高齢者に必要な診療を行うために、老年医学的知識を理解し、必要な医療制度の利用を實踐し、高齢者に適切に対応する態度を修得する。 行動目標: 1) 加齢による身体・精神の変化を述べる事が出来る。 2) 高齢者疾患の特徴を述べる事が出来る。 3) 高齢者に適切な医療制度を説明することができる。 4) 高齢者の栄養の特徴と低栄養への対策につき述べる事が出来る。 5) 高齢者の薬物療法の特徴と留意点につき述べる事が出来る。 6) 高齢者の認知症とその対策につき述べる事が出来る。 7) 高齢者の生活習慣病の特徴を述べる事が出来る。 8) 高齢者の総合評価を実施できる。				
③授業計画・内容	③5月9日 1回: 老年医学の基礎 1: 高齢者診療に必要な基礎的知識 (担当: 小島) 5月16日 2回: 老年医学の基礎 2: 高齢者の栄養 (担当: 七尾) 5月23日 3回: 老年医学の基礎 3: 高齢者の薬物療法 (担当: 小島) 5月30日 4回: 高齢者の臨床 1: 認知症とその対応 (担当: 加瀬) 6月6日 5回: 高齢者の臨床 2: 高齢者の生活習慣病の特徴 (担当: 秋好) 6月13日 6回: 高齢者の臨床 3: 介護保険制度と包括支援センターの役割 (担当: 石井) 6月20日 7回: 高齢者の臨床 4: 高齢者の総合評価 (担当: 岡本) 6月27日 8回: まとめ、試験				
④テキスト・参考書	④参考書: 改訂第3版「老年医学系統講義テキスト」日本老年医学会編 西村書店				
⑤成績評価方法	⑤受講状況ならびに筆記試験にて総合評価する。				
⑥特記事項	⑥・連絡先: 小島太郎 東京大学大学院医学系研究科 加齢医学・東京大学医学部附属病院 老年病科 〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1 E-mail tkojima-tky@umin.ac.jp ・教員の出張等により、項目・担当者・開講日時等の変更がある可能性がありますので注意してください。				

科目名	M282 国際保健医療比較論	科目種別	看護・作業 4年・選択	単位数	1
担当教員	松浦 賢長 *	夏季集中			
①授業方針・テーマ	①われわれ自身および、わが国の保健医療について「考える」ことができ、かつ、他国との比較ができるようにする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②「意味論 (semantics)」の重要性を知る。「近代」とは何かがわかる。「国際」とは何かがわかる。「保健医療(の質)」にもっとも影響する因子を把握できる。自分たちの将来および未来における、保健医療システムのあり方について、自分なりの「考え」を持つことができる。				
③授業計画・内容	③1回:「意味論」とはなにか 2回:「学問」とはなにか 3回:「近代学問」とはなにか 4回:「近代的思考」とはなにか 5回:「考える」とはなにか 6回:「国際」とはなにか 7回:「世界最大の問題」とはなにか 8回:世界宗教(死生観)を概観する 9回:自由、個人、人権はどこからきたか 10回:人道、博愛、チャリティの違いはなにか 11回:マザーテレサを振り返る 12回:タイの人々の死生観 13回:タイにおけるエイズ対策の実際 14回:唯一の人造国家・米国の起源と特徴 15回:米国の保健医療システム、その光と影 16回:わが国の保健医療システム、その効率と改革 17回:わたしたちの考えるべきこと、その場所				
④テキスト・参考書	④特に定めない。				
⑤成績評価方法	⑤出席(50%)およびレポート(50%)				
⑥特記事項	⑥電子メールにより、授業に関する質問等を受け付けます。 matsuura@fukuoka-pu.ac.jp				

科目名	M283 災害保健科学概論	科目種別	看護・作業 4年・選択	単位数	1
担当教員	富田 拓郎 *	夏季集中			
①授業方針・テーマ	①東日本大震災という人類未曾有の大災害はあなたをどう気持にさせただろうか？阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件、米国同時多発テロ、国内外の度重なる自然災害（関東・東北豪雨、広島土砂災害、中国四川省地震、インドネシアバンダアチェ…等）、JR西日本福知山線脱線事故、相次ぐ連続殺傷事件、あるいはパリの同時テロなど……現代は大規模災害や衝撃的な事故・事件・テロが多発する時代と言ってもいい。最近では災害や犯罪被害をテーマにしたドラマやアニメも多く作られ、社会的関心も高い。こうした出来事は、被災（害）者の「カラダ」だけでなく、「ココロ」にも重大な問題を引き起こす。これからの医療スタッフにとって、災害時の支援はまさに必須課題だろう。人間はそういう場面に遭遇したら、どんな状態に陥るのだろうか？医療スタッフとして被災（害）者を支援するには、いったい何が必要なのだろうか？そして、災害や事故は支援者にも大きなストレス（惨事ストレス）となることが少なくないが、どう対処していけばよいのだろうか？授業では、過去の大規模災害・事故事例を交えつつ、ビデオ視聴、体験的なワークやグループ討論等を行う				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・災害後の心理的、精神保健的な問題と対応について、個人・集団・行政等のさまざまな観点の基礎知識を得られる。 ・医療者として、危機的状況にあるときのセルフ・ケア技法を知ることができる。				
③授業計画・内容	③第1回：(総論)災害によって生じるさまざまな問題や反応 第2回：(総論)トラウマ反応とは何か 第3回：(各論)自然災害と災害救援(災害直後の急性期) 第4回：(各論)災害復興時の問題と支援(中長期) 第5回：(各論)集団毒物汚染被害 第6回：(各論)こころのケアの方法論(死別、PTSD、セルフヘルプ) 第7回：(各論)災害救援者の職務関連ストレス 第8回：まとめ (予定は変更することがある)				
④テキスト・参考書	④テキスト：心的トラウマの理解とケア 第2版外傷ストレス関連障害に関する研究会 金吉晴(編) じほう(刊)2310円(税込) 参考書：災害時のこころのケア：サイコロジカル・ファーストエイド 実施の手引き 原書第2版 アメリカ国立子どもトラウマティックストレスネットワーク(著)、アメリカ国立 PTSD センター(著) 兵庫県こころのケアセンター(訳) 医学書院 1296円(税込) (あとは講義の中で随時、指示する)				
⑤成績評価方法	⑤出席状況：30% ミニットペーパー：70%				
⑥特記事項	⑥評価方法上、出席することによるウェイトが大きいので、欠席にはくれぐれも注意する。なお授業の方法、講義内容、評価方法、欠席時の扱い、受講姿勢、連絡先等の詳細を書いたコースパケット(説明書)を初回授業時に配付するので忘れずに受け取ること。				

科目名	M284 リハビリテーション工学	科目種別	理学・作業 4年・選択	単位数	1
担当教員	高橋 良至 *		後期・前半		月曜日
①授業方針・テーマ	①リハビリテーション工学とは、工学をリハビリテーションに活用する学問の総称である。この授業では、生活支援ロボット、医療ロボットなどを題材として、工学とセラピストの関わりなどについて論じる。また、バリアフリーやユニバーサルデザインがどのように実際の暮らしに役立っているか、あるいは改善が必要か、実例から学ぶことを目的とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②関連する基礎的な工学的知識。 セラピストが福祉機器の適合を行う際の視点を養い、アプローチの方法を習得する。				
③授業計画・内容	③第1回 ガイダンス、 第2回 生活支援と工学 第3回 まちの観察1 第4回 まちの観察2 第5回 まとめ1(プレゼンテーション) 第6回 展示会見学1 第7回 展示会見学2 第8回 まとめ2(プレゼンテーション) ※学外展示会見学等の場所、回数、時期は、開催状況や天候により年度ごとに変更がある。				
④テキスト・参考書	④特に指定しない。				
⑤成績評価方法	⑤プレゼンテーション発表とレポート提出				
⑥特記事項					

科目名	M281 臨床心理学演習	科目種別	理学・作業 4年・選択	単位数	1
担当教員	蘭牟田 洋美		後期		木曜日
①授業方針・テーマ	①心理検査や心理療法やカウンセリングの基礎としての関わり技法を中心に、実技を通して学ぶ機会を提供したい。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②臨床心理学の理論や方法は、学習した知識を実践に生かせるようになることが重要である。本演習では、医療専門職にとって患者や障害者と関わる際に有用な心理臨床の方法に関して、テストやカウンセリングを通じて実践的な理解を深めることを目指す。				
③授業計画・内容	③スケジュールは以下の通りである。ただし、受講生の人数や進行状況に合わせて変更する可能性があることを了承されたい。 1. 臨床心理学の基礎知識の確認 2. 健康行動理論を用いた事例分析(1): 事例を心理面からより深く理解するために 3. 健康行動理論を用いた事例分析(2): 事例を心理面からより深く理解するために 4. 健康行動理論を用いた事例分析(3): 事例を心理面からより深く理解するために 5. 心理テスト:SCTを用いた投影法の実施 6. 心理テスト:投影法の結果分析(1): 自身をよりよく知るために 7. 心理テスト:投影法の結果分析(2): 自身をよりよく知るために 8. 心理テスト:投影法の結果分析(3): 自身をよりよく知るために 9. 心理テスト:投影法の結果分析(4): 自身をよりよく知るために 10. 心理療法の確認 (1): 認知行動療法・自律訓練法 11. 心理療法の確認 (2): 来談者中心療法 12. 心理療法の確認 (3): 芸術・遊戯療法 13. 心理療法の確認 (4): 心理アセスメントの必要性和カウンセリングについて 14. 心理療法の応用編: 心理療法を使った治療プログラムを考える 15. まとめ				
④テキスト・参考書	④特に指定しない。必要に応じて、授業で紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤レポート(50%)と発表(50%)で評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M020 ケア・マネジメント論	科目種別	理学・作業 4年・選択	単位数	1
担当教員	斉藤 恵美子、清水 準一、増谷 順子	後期・後半		火曜日	1,2時限
①授業方針・テーマ	①この授業では、ケアマネジメントについての歴史、概念、基本的技術に関する知識について講義します。また、病院・施設や在宅、地域におけるケアマネジメントの目的と過程、対象となる人々やその家族への支援について学びます。さらに、多職種で課題を共有し、それらを解決する視点や方法を身につけることを主眼とします。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・ケアマネジメントの歴史、概念、基本的技術について理解できる。 ・病院や在宅、地域におけるケアマネジメントの過程とその特徴を述べることができる。 ・よりよいケアマネジメントのあり方とその方法について、自分の意見を述べるができる。				
③授業計画・内容	③第1回 ケアマネジメントの概要 第2回 地域のケアマネジメント① 第3回 在宅のケアマネジメント① 第4回 在宅のケアマネジメント② 第5回 病院や施設のケアマネジメント① 第6回 病院や施設のケアマネジメント② 第7回 地域のケアマネジメント② 第8回 事例検討、文献検討(課題学習)				
④テキスト・参考書	④教科書 特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。 参考書 「新版・社会福祉学習双書」編集委員会編(2008). ケアマネジメント論(改訂6版). 東京:全国社会福祉協議会.				
⑤成績評価方法	⑤課題レポートの内容(80%)、授業参加の態度・積極性(20%)により評価します。課題レポートについては、授業時間数の3分の2以上出席した学生が、指定した期日までに提出した場合を評価の対象とします。欠席等は減点します。				
⑥特記事項	⑥高齢者ケア・在宅ケアなどに関する分野と、介護支援専門員の資格に興味・関心のある学生の履修を推奨します。				

科目名	M280 救急医学	科目種別	理学・作業・放射 4年・選択	単位数	1
担当教員	高橋 政照 *	後期・前半		火曜日	4時限
①授業方針・テーマ	①救急医学は、内科や外科、産婦人科や小児科を問わず様々な疾病や外傷等を包括的に扱い、幅広い知識が要求されると同時に、生命の危機に直面する重症患者を扱う場面も多く、素早い診断と処置、治療が要求される。生命の危機に直面した患者を救うことができた喜びは、医療業務に携わる全ての職種の喜びに他ならない。本講座では、疾病の中でも共通点の多い病態や、いわゆる急性期疾患を対象とし学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②最近のガイドラインに基づいた心肺蘇生法、ショック、意識障害、重度外傷、環境因子、感染症、災害対応等、各救急領域の学問に対する概要と対応法について学習し理解を深める。				
③授業計画・内容	③1回:救急医学概論 2回:心肺蘇生法 3回:ショック 4回:外傷医学 5回:環境障害(熱中症、低体温症、など) 6回:感染症 7回:急性中毒学 8回:試験				
④テキスト・参考書	④参考書:標準救急医学(医学書院)				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験				
⑥特記事項	⑥配布資料はない。パワーポイントは必要に応じて使用する。				

科目名	M232 生理学Ⅱ	科目種別	理学・作業 4年・選択	単位数	1
担当教員	渡辺 賢、木村 直史 *			水曜日	4 時限
①授業方針・テーマ	①既に履修した生理学を復習し、臨床に必要な生理学の知識を体系的に俯瞰し、臨床に応用できるようにします。又、臨床医学の理解に不可欠な薬理学の基本的な知識が習得できるようにいたします				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②理学療法士・作業療法士に求められる生理学の知識と生理学的、薬理的視点を修得し、臨床現場で応用できる能力を獲得することを本科目の到達目標とします。そのため、毎回演習問題を解き、解説を行う時間をとります。				
③授業計画・内容	③項目1:自律神経系と血液 項目2:内分泌 項目3&4:循環・呼吸 項目5:消化吸収・代謝 項目6:腎機能と酸塩基平衡 項目7:運動系 項目8:中枢神経系による制御 項目9:感覚とまとめ 項目10:薬理学の基礎(木村直史東京慈恵会医科大学教授):2回を予定				
④テキスト・参考書	④テキスト:特に指定しません。1年生で各自が使用した教科書、参考書を利用してください。もし、新たに教科書、参考書を購入するならば、生理学テキスト(第6版)大地陸男著 文光堂刊、を推薦します。また、講義資料を毎回配布致します。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況(約20%)、受講態度(約20%)並びにレポート(約60%)などを総合し評価します。				
⑥特記事項	⑥項目が多いので、正規の講義とは別に補習講義を行うことを検討しています。祝日や教員出張・会議、又は卒業研究の日程等により講義日・時間を変更することがあるので注意してください。 ⑦質問等は渡辺 賢 masaru@tmu.ac.jp まで願います (@は半角に変えてください)。				

科目名	M267 障害者とスポーツ論	科目種別	全学科・4年・選択	単位数	1
担当教員	新田 收、池田由美、信太奈美、東明有美	後期・前半	月曜	1 時限	
①授業方針・テーマ	①障害がある人のスポーツを通して、人間にとってのスポーツの意味や意義を深く探求する。あらゆる人がスポーツの享受をうけられるよう、障害のある人のスポーツへの関わり方を知る。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②障害特性を理解し、スポーツ参加のための様々な留意点や実際に行われているスポーツ活動等を知る。それぞれの障害に合わせたスポーツの提案やレクリエーションが提供できるようにする。				
③授業計画・内容	③ 1 回障がい者スポーツの意義(新田) 2 回障害の理解とスポーツⅠ(池田) 3 回障害の理解とスポーツⅡ(池田) 4 回障害の理解とスポーツⅢ(東明) 5 回障害の理解とスポーツⅣ(信太) 6 回障がい者スポーツを取り巻く環境と施策(信太) 7 回障がい者スポーツ指導と安全管理(信太) 8 回指導者制度と障がい者スポーツ大会(信太)				
④テキスト・参考書	④テキストは使用せず、必要に応じて授業資料を配付 参考図書:アダプテッド・スポーツの科学 市村出版 障害者のスポーツ指導の手引 ぎょうせい				
⑤成績評価方法	⑤レポート(70%)、出席(30%)で評価する。				
⑥特記事項	⑥全てに出席し、補講として、実技2時間とスポーツボランティア論・障がい者スポーツのボランティアに4時間、計6時間(担当:信太)に参加することで、(公財)日本障がい者スポーツ協会 公認初級 障がい者スポーツ指導員資格の申請ができる。				

科目名	IPE 海外短期研修	科目種別	全学科 2・3・4 年	単位数	1
担当教員	木下 正信 他	後期			
①授業方針・テーマ	① IPE海外短期研修では保健・医療・福祉専門職における多職種間連携に関して学ぶために、2週間程度の海外滞在による IPE (Interprofessional Education) の講義、演習及び実習を行なう。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	② 海外の保健医療福祉のシステム、医療保険制度や文化の違いを学び、同じ専門職でも国が異なれば役割や機能が異なることを理解することができる。実習では、「専門職連携協働」の概念と意義を学び、将来、医療職場に必要なチーム医療の能力、国際的医療人及び国際的視点を有する医療人の素地を育む。				
③授業計画・内容	③ 海外提携大学において 2 週間程度、IPE の正規授業・演習・実習に参加し、「チーム医療」、「連携協働」を実践するための基礎を学ぶ。さらに、文化の違いを体験しながら、同じ専門職や他の専門性に触れながら英会話を共通語とした国際的なコミュニケーションスキルを育み、将来、国際的な視野に立って活躍できる専門性の基盤を醸成する。				
④テキスト・参考書	④配付資料				
⑤成績評価方法	⑤(1)出席 (2)帰国後報告会でのプレゼンテーション (3)レポートの結果により総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥・本科目の履修は、毎年、公募形式での募集により行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目履修にあたっては、選択科目「多職種連携学習」を受講していることが望ましい。 ・学科ごとに実施される選抜試験に合格した学生のみが参加できる。 ・応募時に、TOEFLIBT や IELITS 等の国際的英語試験成績を提示すること。 ・パスポート(研修期間開始から有効期間 6 ヶ月保有)取得が求められる。 ・研修に要する経費(渡航費、宿泊費、食費等)は、原則、自己負担とする。 ・研修大学によっては、授業料、施設使用料等が生じる場合があり、その場合は原則、自己負担とする。 ・本科目は、派遣大学・機関により授業内容が異なるため、派遣先が異なる場合には重複履修も可能である。 ・海外提携大学: Kingston University (旧 St George's University of London) (英国)、University of Nottingham (英国)、Karolinska Institutet (スウェーデン)。 ・担当教員は、各年度において変更される場合がある。木下正信、石川陽子、野村亜由美、浅川康吉、網本和、伊藤祐子、ペイター・ボンジェ、小倉泉、妹尾淳史、金寿蓮(平成 27 年度) ※本科目は卒業単位としては算定されないので、注意すること。				

科目名	多職種連携学習	科目種別	全学科 2・3・4 年	単位数	1
担当教員	木下 正信 他	通年			
①授業方針・テーマ	①患者(利用者)や介護者を敬愛する心を養成し、多職種が患者(利用者)や介護者を中心にしたチーム医療を推進するために、自己の専門性の考えを深化させることをテーマとする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②この「多職種連携学習」の科目を通して、コミュニケーションスキルの向上を図ることが第 1 の目標であり、それぞれの専門性を生かして課題解決型のグループワーク学習を行い、最後にグループごとの発表を実施する。また、他大学との交流、合同演習を通じて実践的な多職種連携のあり方を学習できる。さらに、障がい者スポーツにおける医療職種の役割を学ぶとともに在宅訪問演習を取り入れ地域貢献に資する経験も可能である。				
③授業計画・内容	③授業内容 1)多職種連携学習の概念、意義、(2 時間) 2)具体的方法(KJ 法、ロールプレイ)・ワークショップ形式(4 時間) 3)各学科紹介・職種イメージに関する演習(4 時間) 4)供覧される症例の背景と問題提起(2 時間・講義) 5)症例検討演習(6 時間) 6)連携学習合同演習(8 時間) 7)障がい者スポーツとパラリンピック・多職種での貢献(チームアプローチ)(6 時間) 8)荒川区との連携演習(4 時間)				
④テキスト・参考書	④テキスト:特に定めない。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況(約 10%)、受講態度(約 40%)並びにグループワーク・発表内容(約 50%)などを総合し評価する。				
⑥特記事項	⑥海外短期研修の参加には、この科目を履修していることが望ましい。 症例検討はシミュレーションルームにおいて実施する場合がある。				